

おおかみと七ひきのこどもやぎ

DER WOLF UND DIE SIEBEN JUNGEN GEISSLEIN

グリム兄弟 Bruder Grimm

青空文庫

むかし、あるところに、おかあさんのやぎがいました。このおかあさんやぎには、かわいいこどもやぎが七ひきあって、それをかわいいがることは、人間のおかあさんが、そのこどもをかわいがると、すこしもちがったところはありませんでした。

ある日、おかあさんやぎは、こどもたちのたべものをとりに森まで出かけて行くので、七ひきのこどもやぎをよんで、こういいきかせました。

「おまえたちについておくがね、かあさんが森へ行ってくるあいだ、気をつけてよくおるすばんしてね、けっしておおかみをうちへ入れてはならないよ。あいつは、おまえたちのこらず、まるのまんま、それこそ皮も毛もあまさずたべてしまうのだよ。あのわるものは、わからせまいとして、ときどき、すがたをかえてやってくるけれど、なかに、声はしやがれて、があがあごえだし、足はまつ黒だし、すぐと見わけはつくのだからね。」

すると、こどもやぎは、声をそろえて、

「かあさん、だいじょうぶ、あたいたち、よく気をつけて、おるすばんしますから、心配

しないで行つておいでなさい。」と、いいました。

そこで、おかあさんやぎは、メエ、メエといって、安心して出かけて行きました。

二

やがて、まもなく、たれか、おもての戸をとんとんたたくものがありました。そうして、「さあ、こどもたち、あけておくれ、おかあさんだよ。めいめいに、いいおみやげをもつて来たのだよ。」と、よびました。

でも、こどもやぎは、それがしやがれた、があがあ声なので、すぐおおかみだということがわかりました。そこで、

「あけてやらない。おかあさんじゃないから。おかあさんは、きれいな、いい声してるけれど、おまえはしやがれつ声こえのがあがあ声なもの。おまえはおおかみだい。」と、さげびました。

そこで、おおかみは、あらしものや荒物屋の店へ出かけて、大きな白はくぼくを一本買って来て、それをたべて、声をよくしました。それからまたもどつてきて、戸をたたいて、大きな声で、

「さあ、こどもたち、あけておくれ。おかあさんだよ、みんなにいいものをもつて来たのだよ。」と、どなりました。

でも、おおかみはまつ黒な前足を、窓のところにかけていたので、こやぎたちはそれを見つけて、

「あけてはやらない。うちのおかあさんは、おまえのようなまつ黒な足をしていない。おまえはおおかみだい。」と、さげびました。

そこで、おおかみは、パン屋の店へ出かけて、

「けつまづいて足をいためたから、ねり粉をなすっておくれ。」と、いいました。

で、パン屋が、おおかみの前足にねったこなをなすってやりますと、こんどは、こなや粉屋へかけつけて行って、

「おい、前足に白いこなをふりかけてくれ。」と、いいました。

「おおかみのやつ、まただれかだますつもりだな。」

そう粉屋はおもつて、ぐずぐずしていました。

するとおおかみは、

「すぐしないと、くつちまうぞ。」と、どなりました。

そこで、粉屋はこわくなって、おおかみの前足を白くしてやりました。まあ、こういうところが、人間のだめなところですね。

さて、わるものは、三どめに、やぎのおうちの戸口に立って、とんとん、戸をたたいて、こういいました。

「さあこどもたちや、あけておくれ、おかあさんがかえって来たのだよ、おまえたちめいめに、森でいいものをみつけて来たのだよ。」

子やぎたちは、声をそろえて、

「さきに足をおみせ、うちのおかあさんだかどうだか、みてやるから。」

そういわれて、おおかみは、前足を窓にのせました。こどもやぎがそれを見ますと、白かったので、おおかみのいうことを、すっかりほんとうにして、戸をあけました。

ところで、はいつて来たのはたれでしたらう、おおかみだったではありませんか。

みんな、わあつとおどろいて、ふるえあがって、てんでんにかくれ場所をさがして、かくれようとなりました。ひとりは、つくえの下にとびこみました。次は寢床ねどこにはいこみました。三ばんめは、炉ろの中にかくれました。四ばんめは、台だいどころ所へにげました。五ばんめは、棚たなにあがりました。六ばんめは、洗面せんめん面だらいの下にもぐりました。七ばんめは、柱

時計の箱のなかにかくれました。

ところが、おおかみは、そばからみつげだして、ぞうさなく、ひとりひとり、かたはしからつかまえて、ただひと口に、あんぐりやつてしまいました。ただ、大時計の箱のなかにかくれた、いちばん小さな子だけは、みつからずすみました。さて、たらふくたべたいただけべて、おなかがかくちくになると、おおかみはおもてへにげ出して、木のかげになつて、青あおとしているしばの上に、ながながとねそべつて、ぐうぐういびきをかきだしました。

三

それから間もなく、おかあさんやぎは、森からかえつて来ました。ところで、まあ、おかあさんやぎは、そのときなに見たでしょう。おもての戸は、いっばいにあけひろげてありました。テーブルも、いすも、腰かけも、ほうりだされていました。洗面^{せんめん}だらいは、こなごなにこわれていました。夜着^{よぎ}もまくらも、寝台^{しんたい}からころげおちていました。

おかあさんやぎは、こどもたちをさがしましたが、ひとりもみつきりません。ひとりひ

とり、名前をよんでも、たれも返事へんじをするものがありません。おしまい、いちばん下の子の名前まで来て、はじめて、ほそい声で、

「かあさん、あたい、時計のお箱にかくれているよ。」というのが、きこえました。

おかあさんやぎは、この子をひっぱりだしてやりました。そこで、この子の口から、はじめにおおかみが来て、ほかのこどもたちみんなたべてしまったことが、わかりました。そのとき、おかあさんやぎは、かわいそうな子やぎたちのことを、どんなに泣いてかなしんだか、みなさん、さっしてみてください。

やつこのことで、おかあさんやぎは、泣くことをやめて、末すえつ子やぎといっしょに、そとへ出ました。原っぱまでくると、おおかみは、やはり木のかげにながながとねそべって、それこそ木の枝も葉も、ぶるぶるふるい動くほどの高いびきを立てていました。

ところで、おかあさんやぎが、おおかみのようすを遠くからよく見ますと、そのふくれかえったおなかの中で、なにかもそもそ動いているのがわかりました。

「まあ、ありがたい、おおかみのやつ、うちのこどもたちを、お夕飯ゆうはんにして、うのみにのみこんだままだから、みんなきつとまだ生きているのだよ。」

こうおもって、おかあさんやぎは、さっそく、うちへかけこんで行って、はさみと針と

糸をとつて来ました。それから、おかあさんやぎは、このばけもののでつ腹を、ちよきんとはさみで、ひとはさみはさみしました。するともうそこに、一ぴきのこどもやぎが、ぴよこんとあたまを出しました。おかあさんはよろこんで、またじよきじよきはさんで行きますと、ひとり出^で、ふたり出して、とうとう六ぴきのこどもやぎのこらすが、とびだしました。みんなぶじで、たれひとり、けがひとつしたものもありません。なにしろ、この大ばけものは、むやみとががつついていて、ただもう、ぐつく、ぐつく、そのまま、のどのおくへほうりこんでしまつていたからです。

まあうれしいこと。こどもたちは、おかあさんやぎにしつかりだきつきました。それから、およめさんをもろう式の日の、仕立屋のように、ぴよんぴよんはねまわりました。

でも、おかあさんやぎは、こどもたちをとめて、

「さあ、そこらで、みんな行つて、ごろた石をひろつておいで、この罰^{ばち}あたりなけだものが寝^ねているうちに、おなかにつめてやるのだから。」といいました。

そこで、こどもたちは、われがちにかけだして行つて、えんやら、えんやら、ごろた石をあつめて、ひきずつて来ました。そうして、それを、おおかみのおなかに、つまるだけつめこみました。すると、おかあさんやぎが、あとから、ちよつちよつと、手ばしこく、

もとのようにぬいつけてしまいました。それがいかにも早かったので、おおかみがまるで気がつかないし、ごそりともしないまにすんでしまいました。

おおかみは、やつとのこと、寝たいだけ寝て、立ちあがりました。なにしろ、胃袋いぶくろのなかは石がいつぱいで、のどがからからにかわいてたまらないので、ふき井戸のところへ行つて、水をのもうとしました。ところが、からだを動かしかけますと、おなかの中で、ごろた石がぶつかりあつて、がらがら、ごろごろ、いいました。

がらがら、ごろごろ、なにがなる

そりやどこでなる、腹はらでなる。

六ひきこやぎのなくこえか、

こりや、そうじやない、ごろた石、

おおかみは、こううたいました。

さて、やつとこすつとこ、ふき井戸の所まで来て、水の上にかがもうとすると、おなかの石のおもみに引かれて、おおかみは、のめりました。そうして、いやおうなしに、泣き

泣きおおかみは、水の中におちこみました。

遠くで見っていた七ひきのこどもやぎは、みんなかけよって来て、

「おおかみ死んだよ。おおかみ死んだよ。」とさけびながら、おかあさんやぎと手をつなぎながら、およろこびで、井戸のまわりをおどりまわりました。

青空文庫情報

底本：「世界おとぎ文庫（グリム篇）森の小人」小峰書店

1949（昭和24）年2月20日初版発行

1949（昭和24）年12月30日4版発行

※「旧字、旧仮名で書かれた作品を、現代表記にあらためる際の作業指針」に基づいて、底本の表記をあらためました。

入力：大久保ゆう

校正：浅原庸子

2004年4月29日作成

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

おおかみと七ひきのこどもやぎ

DER WOLF UND DIE SIEBEN JUNGEN GEISSLEIN

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

著者 グリム兄弟 Bruder Grimm

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>